

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500670		
法人名	社会福祉法人 熊本菊寿会		
事業所名	グループホーム大和		
所在地	熊本市北区植木町木留336-2		
自己評価作成日	令和 6年 2月28日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム大和は、熊本市北区の北部に位置する植木町にあります。自然豊かな環境に包まれています。私達の事業所では、利用者様の一人ひとりの状況に合わせて、やりたい事等を見守り、支援しながら、共に笑顔のある暮らしが送れるように日々努めています。新型コロナも5類に移行し、ご家族様のご理解と協力を得ながら感染予防を図った地域の行事への参加、地域からのお話ボランティアにも来ていただくことができています。少しずつですが地域社会との交流も再開できました。今後も利用者様が地域と共に暮らしやすい共生社会となれるよう努めています。また現在も採れたての野菜やお米、お花等の物々交換のなどいただき、地域の皆様との交流も図ることができています。今年は認知症の行動・心理症状(BPSD)の予防・軽減を目的とした国の認知症ケア研究モデル事業に参加し、当事業所でチーム実践を行うことができました。チーム皆のモチベーション及びスキルアップに繋がっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigosaku.jp/43/index.php">http://www.kaigosaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年3月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざす努力が功を奏し、感染対策を施しながら地域との交流に力を入れて取り組み、運営推進会議での話し合い、特にBCP策定に向けホーム・家族及び地域がチームとして捉える等地域の中にある事業所としての役割を明確にしている。また、出来る限り地域に出ながら交流促進に努め、お話ボランティアとしての訪問等ホームの存在が浸透し、モデル事業(国)への参加が職員のスキルアップや気づく力の発揮として生かされている。入居者の“らしさ”に注視した日常は穏やかで、その様子はライン等を通じ家族へ情報を発信している。コミュニティセンターで開催するサロンをきっかけとして住民からの勉強会の希望に繋がる等相乗効果として表われており、地域福祉を担うホームとして認知症ケア推進に寄与されること大いに期待したいホームである。職員のほとんどが長い勤務歴ではあるが、多様な委員会活動への参加や、研修等によりプランアップを図り、基本目標として入居者個々の状況の理解と、その人らしい生活に注視する等ベクトルを同じくしてケアに臨んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して毎朝朝礼時に唱和し、実践につなげている。自分たちで考えた介護の理念はケアの拠り所となっている。自分たちのケアがこれでいいのか不安になった時にいつでも振り返ることが出来るように目にとまる場所に掲示している。	理念の6項目を継続し、“一日一日を大切に、安心・安楽に暮らせるよう支援する”ことや、地域とともに…とする項目が開花し、地域活動を充実させる等確固たる基盤を築いている。職員の変動も少なく、理念は全員に浸透し、日々のケアに直結させている。また、入居者一人一人を理解し、その人らしい生活を送っていただくことを基本目標としてベクトルを同じくして臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出などの制限を余儀なくされたが、感染予防を配慮して可能な限り交流が持てるよう努めた。今後ご利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流していく。	地域の中での生活は充実し、校区夏祭りやコミュニティセンターでの会議では認知症についての講話、清掃活動等多岐にわたって参加しながら交流に努めている。近隣住民も協力的であり、野菜や雑巾の持ち届け等の他、能登半島地震時には支援物資をホームに持参される住民や、社協主催のイベントに職員や家族も参加することで老人会や子ども会等世代間交流の一環としている。お話ボランティアとして訪問される住民等地域にホームの存在が浸透していることが表われている。コミュニティセンターでのサロンの開催が更に住民の希望による介護予防研修等に繋げる等相乗効果として表われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、地域からの相談事があった時は相談支援を行い、必要に応じて関係機関へのつなぎを行っている。また地域の清掃活動に参加貢献している。そして、認知症ケアの専門職を活かした認知症実践における講話、またサロンの開催を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルスが5類に移行したことで、ご家族及び地域の皆様の協力とソーシャルディスタンスのため地域のコミュニティセンターをお借りし、集合の運営推進会議が開催できた。	ホームの庭先や地域のコミュニティセンターを活用した運営推進会議は、活動報告とともに外部評価結果や課題等を話し合う機会としている。BCP作成も地域や家族とともに策定するとして夜間帯に発生することを想定した連絡網・役割分担等を話し合い有事に備えるとしている他、地域住民の電話番号を了承を得てリサーチする等運営推進会議の開催意義が発揮された充実した会議である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ささえりあ植木様、市北区福祉課及び保護課様とは定期的に連絡を取り、現況報告はできている。また認知症介護指導者の在籍により、市からの相談事に対応、協力をしている。	運営推進会議に地域包括支援センターからの参加を得ている他、市に提案しながらチームオレンジを立上げ、福祉課及び生活保護関係部署と連携を図り、認知症介護指導者として行政の相談（権利擁護や虐待問題等）に対応している。社協主催のサロンやイベントに参加する等関係各部署と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を2ヶ月に1回程度開催し、禁止対象となる具体的な行為について振り返りを行い話し合いの場を設け、定期的な勉強会を行うことができている。	身体拘束廃止指針の掲示により意識を強化させるとともに、身体拘束等適正化委員会の開催や、全職員がオンラインによる研修を重ねている。無断外出については運営推進会議の中で説明し、再発防止に向け今後の対策を検討しており、老人会長からも見守りに協力する等多くの意見が出されている。転倒防止にセンサー（マット・人感センサー）使用にはプランに組み入れ、身体拘束委員会の中での検討及び見直している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内・外部研修に参加し、最新の情報を踏まえて、スタッフへ周知徹底することができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内・外部研修に参加し、最新の情報を踏まえて、スタッフへ周知徹底することができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解を得られている。いつでも気になる事があつたら気兼ねなく声をかけて頂けるよう、日頃から利用者様の現況報告を通してコミュニケーションを図り風通しのよい環境づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの流行によりオンライン化面会や通話、ラインメールを活用することができ、さらにコミュニケーションが取りやすい状況となっている。	家族からもラインを通じての質問や要望等には即時検討し返答する他、面会時の状況報告及び意見等を収集している。また、法人の広報誌による日常発信や運営推進会議も問題提起の場として生かされている。家族には事実を知ってもらいたいとして良し悪しに関わらず伝え、家族も意見や要望を気軽に話せる関係ができており、毎日訪問して下さる家族等良好な関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できる限りその都度意見交換し、必要な時はそれぞれのチームで話し合い、その意見の解決に努めている。また、年に2回以上個人面談を行い、普段からも何かあつたら意見や提案が言いやすい環境づくりに努めている。	職員の意見や提案にはその都度意見交換を行い、毎月のカンファレンスを通した率直な意見がケアサービスに反映されている。認知症ケアマッピングが入居者の“らしい生活”に繋がると共に職員の育成に繋げている。また、職員により委員会活動、地域住民、家族もチームとして捉えながらケア向上へ取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から職員個々へ声掛けを行い、各自の思いを傾聴し理解できるよう努め、勤務環境の充実に繋がるよう図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受けて頂き、利用者様一人ひとりの支援について職員個々のケア状況を確認しながら適宜指導している。また中核職員については一緒に研修に参加して頂きその事について指導できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は行事や研修をとおして他事業所との交流を行い情報収集を行ったり、サービスの質向上に繋がるよう図ることができた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とのコミュニケーションを細目に図り関係づくりに努め、困っている事・不安な事がないか定期的に傾聴できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の現況をご家族に細目に連絡し、ケアプランをもとに支援内容について確認しながら検討を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を聞き、ケアプランに反映して支援している。また、インフォーマルサービスとしてパンの訪問販売を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの状況を把握し、一緒にできる食材の野菜の皮剥き・調理の味見、洗濯干し・茶碗拭き等他を一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は、コロナの影響で一緒に外出される機会は少ないが、ソーシャルディスタンスを図ったリアル面会やオンライン面会、電話をとおして、利用者様が安心して暮らせるよう一緒に支援して頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記と同様に今年度はコロナ禍の影響で交流行事は減少しているが、地域の方々からの声掛けや訪問は継続して出来、適宜交流ができています。	家族の面会や家族との受診、園児との交流は継続して支援している。家族とのホーム周辺へのドライブやサロンへの参加、入居者にとってはこの場所自体が馴染みの場所である。家族は正月に自宅で過す事を検討されたケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握し、コミュニケーションが取れやすい環境整備に努めご支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切し、事業所行事への案内や運営推進会、サロン等への参加をして頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援を通して一人ひとりの思いや意向の確認を行い、困難な場合はご家族に確認しながら支援計画を検討している。	職員は日々入居者に寄り添い、意思を確認しており、入居者の中にはしたいこと等自己主張される方もあり、大きな声での会話がその日のバロメーターとして捉えている。意思疎通が難しい現状には表情や行動等を見ながらケアに反映させている。また、家族からの情報や意向を把握し、プラン作りに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の記録やご家族からの聞き取りにより情報共有が出来ている。さらに支援記録を日々ケアに活かす計画の見直しを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に経過記録を残し、しっかり現況把握を図っている。職員で共有し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及び必要に応じて課題とケアの在り方について関係者と話し合いを行い、介護計画を作成している。	本人や家族に意向などを聞き取りしており、転倒があっても自由な生活を望まれる家族の思いに応えPTの関わりで車椅子から自力歩行へと改善がみられることは本人及び家族に加え職員のモチベーションへ繋げている。3ヶ月毎に評価し、変更が必要であれば随時ケアチェック表により具体的な内容やケアに対して見直し、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をとおして職員間で情報共有を図り、気づきを出来るだけ記録できるよう努め、検討見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルスの5類移行に伴い、家族様の協力を得て感染予防対策をとり外出支援できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの5類移行に伴い、地域の夏祭り、ウォークラリー、いきいき健康講座、サロン等、地域の方々や近隣の同職事業所の協力を得て、参加及び開催することができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望及び要望を確認して、かかりつけ医と事業所の関係性を築けている。	かかりつけ医は本人及び家族の希望として、協力医療機関による2週間毎の訪問診療や、入居前からの医療機関として家族による受診支援が行われ、必要に応じて職員も同行している。歯科は全員訪問診療により、治療や口腔ケア、アドバイスを受けている。ホームには看護師2名の配置や法人理学療法士による指導が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働により、利用者個々の現状把握に努めた支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院受診時の相互の情報交換は適切に行っている。日頃から電話連絡とでの交流を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族等にそのことについての説明を行い、また重度化した際に終末期のケアの事前確認を書面にて行っている。看取り期には職員・かかりつけ医及びご家族と一緒に週末期の在り方について話し合いを行いながら支援している。	入居時に重度化・終末期に関するホームの方針を伝え、事前の意向確認を書面で受けている。家族の要望を受け最終の支援を行う際は、必要に応じて家族との話の機会をもっており、望まれる最終に主治医を含めチームワークで取り組んでいる。まだコロナが終息してはいなかったが、看取りの間は対策を施し、僅かの時間でも家族と一緒に過ごしてもらった時間が設けられている。デスクカンファレンスで職員の振り返りによりストレスケアが重要であるとして体感できるような研修を行っている。	職員は本人・家族の思いに寄り添い、出来得る支援に取り組んでいるが、振り返りの中で「もう少しこうしていれば…」などの声が聞かれたようである。引き続き日頃の関わりを大切に入居者の支援に努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ミーティングにて応急手当を学び確認し合い、急変や事故発生時の迅速な報告・連絡を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難経路の確認及び環境整備に努めている。外部業者による消防機器点検も行っている。また、備品及び食材の備蓄整備も整えている。運営推進会を活用して地域、家族の方々と一緒にBCP作成をすることができた。次年度は協働訓練をする予定。	防災業者立ち会いの下、昼・夜を想定した防災訓練の他、地震想定での訓練や消防機器点検を定期的に行っている。備蓄はリストに沿って確保され、不足などがあればその都度準備している。今後は災害対策においても地域貢献に取り組みたいとしている。	運営推進会議を活用したBCP作成により有事に備えている。更に家族や地域も含めた訓練が予定されており、地域の中でのホームの役割が発揮されることと期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待についての勉強会を行い不適切なケアについて職員全員が振り返りを行い支援を行っている。職員が互いに不適切なケアが言い合える環境づくりに努めている。	入居者の尊重やプライバシーに配慮した支援、守秘義務の徹底にについて、勉強会の中で共有を図っている。呼称は苗字や家族の了承を得て下の名前でも対応している。管理者は時々強い口調や幼児語が出たりする場面があり、引き続き振り返りの重要性を語っている。起床時や入浴後など入居者はよく鏡を見られており、身だしなみやおしゃれの支援については、本人・家族の意向を聞きながらヘアカット、季節に応じた衣類の着用など家族の協力も得ながら取り組んでいる。	以前から課題にあっがっている居室をはじめ入室時のノックや声掛け等、引き続き周知徹底に努めていかれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つのケアを行う際は必ず言葉かけを行い本人の意向を確認して支援できている。認知症状にて本人の確認が難しい方は、家族に支援の意向について相談し意思表示がない時は表情や体調を観てケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の気持ちや意向に合わせた支援ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服やヘアスタイル等、本人・家族に意向を聞きながら支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める時は入居者と相談しながら決めている。個人のその日の体調に合わせて野菜の皮むきや味見、食器拭き等して頂いている。	献立はその日の食材や数日間の料理と重ならないよう、入居者の希望を聞きながら季節に応じたものを作成している。開設時から専任者を中心にした職員手作りの食事提供は入居者の楽しみであり、同じものを食べる職員にとっても活力になっている。また、手作りおやつや家族からの焼きいもを届けられるなどおやつも好評である。精肉・鮮魚などは市場の専門店から配達され、地域や家族からの野菜の差し入れも活用されている。	現在、感染症への対応から対面を避けて食事を摂っているが、以前の様に会話を楽しみながら一緒に食事が出来る日が待たれる。盛り付けも工夫された日々の食事は家族にとっても安心や嬉しい取り組みと思われ、今後も変わらぬ支援が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の摂取状況観察を行い、摂取状況に合わせた食事・飲み物及びご本人の好まれる物の提供ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状況に合わせて毎食後口腔ケア出来ている。また、希望される方は週に1回歯科往診があり、職員に口腔ケア助言も頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを知り、さりげなく声掛けを行い排泄支援ができています。オムツの方も座位が可能な方は、本人の気持ちを確認しトイレで排泄支援を行っている。	個々の排泄パターンを共有し、さりげない声掛けや誘導を行っている。トイレは2か所設けてあり、それぞれ使い慣れた場所を使用されている。現在リハビリパンツを使用される方が主であるが、布パンツの方もおられ、オムツも座位が可能な方は、職員が2名体制でトイレへ誘導している。またパットは時間帯で必要の可否を検討するなど個別支援の充実に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を摂ってもらったり十分な水分補給を促している。また日々の集団体操に参加を促し、個別にリハビリを行い身体の運動を実施している。排便困難な方は腹部マッサージを行い出来るだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に応じたタイミングに合わせてお一人ずつ入浴して頂いている。一人の職員が最後まで関わるので、ゆっくりと入浴を楽しむことが出来る。身体状況に合わせて二人介助支援している。	個浴でゆっくりとした入浴を週3回を基本に支援している。看護職員は特に入浴時、腹部など普段見えにくい場所の皮膚観察を心がけている。職員のサポートを受けながらまたぎが出来る方には可能な限り浸かってもらい、困難な方には足浴なども併用しながらシャワー浴で対応している。冬場は特に脱衣所や浴室が冷えないよう心掛けている。毎回湯を入れ替え1番風呂気分を味わっている。シャンプー類はホームで備えているが、好みなどのものを個別で準備される方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情やしぐさ等で疲れが見える時は、部屋で休まれないか声掛けしながら安心して過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬の状況を把握し、薬剤師の方と情報交換を行い助言を頂き職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人それぞれの楽しみや意向に応じて、計算や塗り絵、読書など、また家事の役割やおやつ作りなど一緒に楽しみ、洗濯干し・たたみ等日常生活の役割等感じて頂ける暮らしができるよう支援できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って近隣を散歩したり、個別に車でドライブをしている。また、ご家族と外出もされている。	入居者の中には「散歩に出たい」と要望される方もおられ、敷地内や近隣の散歩、花の開花を見るなど個別で支援している。今年度は芋の苗植えから掘る作業までを楽しむことが出来、収穫後はおやつなどに活用されている。また、パンの移動販売は入居者も庭先に出て好きな物を選ぶ機会として生かされている。家族の協力によりドライブに出られた方もおられる。	これから過ごしやすい季節になっていくことから、引き続き状況を見ながら外出支援に取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望に応じて訪問販売(パン)で購入支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の意向に応じてオンライン面会や電話をかける支援を行えている。手紙の交換も適宜されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のくつろげる椅子やソファ、季節の花や飾り物等環境を整えて、心地よく過ごして頂けるよう努めている。	ホーム内は常に敷地内に咲いたものや職員が自宅で育てた草花が至る所に飾られており、「お花があると気持ちも違うね〜!」「そうね〜!」など、入居者と職員の和やかな日常の会話が聞かれた。畳の間は現在活用されておらず、リビング食堂や談話室を食事や休憩に入居者が選択しながら利用されている。席の配置は感染症への対応を継続し、対面にならないよう配慮している。ホームは自然を感じながらゆっくり過ごせる環境と、ホーム愛猫は入居者が声をかけたり餌の心配をされるなどセラピー猫の役割を果たしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で会話がしやすいよう、その場面に応じて座席の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく入居時には使い慣れたものを持ってきていただくようお願いしている。居心地の良い生活空間になるよう工夫している。	入居時には家族に他の居室を参考までに見てもらい、馴染みや安心される品の持ち込みを依頼している。備わったクロゼットには季節外の寝具や排泄用品等を入れられており、普段の衣類の収納はタンスよりプラスチックケースを準備される方が多くなっている。ぬいぐるみやクッション、手鏡など個々に応じた馴染みの品が持ち込まれている。表札は希望者のみに付けられている。面会時にはゆっくり居室でゆっくり過ごして欲しいところであるが、法人として入室を控えてもらっており、玄関内や談話室でのひと時の面会としており、家族もまた現状を察し遠慮されるようである。	衣替時には家族が持ち帰りをされているが、衣類の確認や整頓は主に職員が行っている。家族の訪室を控える状況が続くようであれば、引き続き家族に代わって室内環境の整備に取り組み、家族へ状況を伝えていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋の認識がしやすいように「表札」をつけたりトイレには暖簾をつけ過ぎやすいよう努めている。表札を付けないで欲しいという要望等にも配慮している。		